○　学校評価（職員）

【与論高等学校の教育目標と重点目標】

（目標の実現状況）

- 多くの生徒が進路実現や与論島の課題の発見・解決に向けて主体的に考え，周囲と協働しながら行動することが出来ている。
- 前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の流行等で予測が困難な時代であるが，その都度臨機応変に対応することができた。今年度も何事もなく無事に修学旅行が実施できたのは生徒にとっても喜ばしいことであったと思う。
- 校訓をシラバスに盛り込むことによって，調和の取れた人間の形成を意識して，職員が日々努力している。ただ，学習活動以外の教育活動において，より校訓を意識することが求められると感じる。
- ４つの校訓に沿って単元毎に目標を設定し，予測が困難な時代を主体的に生き抜く力を持った生徒を育めるよう授業を工夫している。授業以外でも，特別活動や部活動などを通して，より一層の充実を図っていく必要がある。ポイントである主体性を育むために，生徒一人一人の心に届く指導を心掛けている。
- 校訓や教育目標に基づいた単元シラバスの作成や学年目標の設定によって，育てたい生徒像を具体的にイメージし，系統だった指導を行うことが出来ている。
- 生徒が校訓に掲げられたそれぞれの内容に相応しい人材に育ちつつあると実感している。「好学・創造・親和・不屈」の全てを満たすわけではないが，個に応じた目標に向けて努力する姿が見られるので誇らしい。今後は，各生徒の成長段階に合わせ，主体性が身に付く指導を取り入れたい。
- 単元テストの実施や外部と連携した進路関係行事や総合的な探究の充実化など，新学習指導要領の学力観に沿った生徒を育成する指導体制が着実に形成されつつある。教育のより一層の充実のために，ICT教材を効果的に生かせる環境を，ハード・ソフトの両面で整えていく必要がある。
- 授業や学校行事などで助け合いの精神は特に成長が進んでいるように感じる。主体的に学習に取り組み，プラスアルファの課題や自ら計画を立てて学習を行う習慣を身に付ける必要がある。
- 総合的な探究や外部講師による講演会等を通した育成を行っている。
- 生徒自らに目標を設定させ，どのようにその目標を達成するか計画を立てて取り組ませ，振り返るPDCAサイクルを意識した取組を行った。あらゆる場面で，主体的に動く生徒の姿を目にする機会が多くなった。
- 所謂，教科としての学習だけでなく，探究的な学習や諸行事に対する意欲的で前向きに取り組む姿勢を見る機会が増えている。自ら見通しを立てて学習していく調整力の更なる伸長を図るために，今後も継続的に教育目標や重点目標を意識した問いかけが必要である。
- 「先を見越して自分で考えて学習する」ことが出来る生徒と出来ない生徒の大きな差を感じる。生徒一人一人の特性を見て，指導や助言を行っている。
- 教育目標にある「人材を育成する」という目的意識を明確に持って，普段から仕事をしたり生徒と関わったりすることが少なかった。今回，学校評価を行うに当たってグランドデザインを読み返すことで，改めて認識することが出来た。重点目標の「主体的」，「予測が困難な時代」，「生き抜く力」などの言葉は，全校朝礼等の講話やゆんぬの時間を通して，生徒や職員もかなり意識し，浸透してきているのではないかと思う。
- 朝課外の廃止や学期中のアルバイトの許可など，生徒の自主性を尊重する思い切った改革を行った。それによって増えた自由時間を有効に利用することが出来ている生徒は少ないと思われる。生徒がその意図をしっかり汲んで行動することが出来るよう，生徒の意識改革を引き続き行っていく必要がある。

【豊かな人間性】

（成果）

- 与論島の自然や伝統，文化を大切にし，周囲の人々に思いやりを持って接することが出来ている。
- ゆんぬの活動を中心に，地域社会との繋がりを考え，深めていく意識が高まって

いる。
・　海洋教育，総合的な探究の時間などで，与論の伝統・文化を尊重することが出来ている。
・　総探や諸行事において，地域サポーター等から郷土について学ぶ機会を多く得ることが出来た。
・　ゆんぬ等で地域の方々の協力を得られて，あらゆる価値観を培うことが出来た。
・　探究の発表等により，コミュニケーション能力が向上している。
・　学業以外でも得意な分野や個性を持つ生徒が数年前よりも目立ち，周囲も温かく応援したり見守ったりする雰囲気がある。
・　授業内で互いの意見を尊重するような学習活動を多く実践している。
・　人権意識は高く持っている。

（課題）
・　型にはまらず，自己の特徴を生かして周りに貢献することが出来る人材を育てる必要がある。
・　LHRや総合的な探究の時間などを関連させながら,更に発展させていく必要がある。
・　幅広い教養を身に付ける機会を生かし切れていない生徒もいる。
・　与論島の文化や特色を授業内で活用していく。
・　探究活動を調べ学習で終わらせないサポートが必要。また，これまでの探究活動で得られた知見を生かし，更に深い探究活動を行うため，過去の研究成果のデータベース化が必要。
・　調べたことを発表するプレゼンテーションや思考力に乏しい。
・　探究活動や海洋教育の成果をお互いにシェアする場面が少ない。人権通信も配るだけになっている場合もあるので，クラスで読んで考える時間も必要。
・　人権の重要性を自分を中心にしてのみ考えている生徒がいる。

【健康・体力】

（成果）
・　多くの生徒が元気に登校している様子が見られる。
・　基本的な生活習慣が身に付いている。
・　学校行事等を通して時間を意識し，規則正しい生活を心掛けようとする生徒が増えた。
・　感染症対策予防を通じて，健康管理を意識して生活している。
・　あらゆるものの土台として，基本的な生活習慣があり，その大切さを語り続け，生徒の意識にも少しずつ変化が見られた。
・　体育祭が無事に実施され，大きな怪我もなく良かった。
・　大きな事故や怪我をすること無く過ごせている。
・　多くの生徒が部活動などに積極的に参加している。
・　登校指導，ホームルーム，保健体育授業等での成果が出ている。
・　食で基本的生活習慣の大切さを生徒や家庭に伝えている。
・　昨年度に比べて，８時15分着席が徹底されている。
・　職員・生徒ともに基本的な感染症予防対策の徹底がなされている。
・　体育祭への準備や体育系部活動の取組が熱心である。

（課題）
・　基本的生活習慣の身に付いていない生徒もいる。
・　心の問題や弱さを抱えている生徒への対応。
・　少なからず遅刻者がおり，その改善があまり見られない。
・　遅刻常習者への粘り強い指導と家庭との連携。
・　体力作り，時間意識の向上。
・　校内のルールや生活習慣についての意識の低い生徒への指導。
・　ゲームなど生活のリズムが壊れる場合がある。
・　自転車通学から単車通学へと変わったこと，登校時間が遅くなったことで体力的な低下や生活習慣の変化が見られるのか。

【何が出来るようになるか（学校教育の基本）】

（成果）

・　特にゆんぬの活動において，探究的な態度や多様な人々との協働が見られる。
・　探究活動を通して，人前で発表したり自分の意見を発信したりする機会が増え，自分たちが主体的に進めていく活動に慣れ始めてきている。
・　状況に応じて各自でグループ学習や個人学習を取り入れており，他者との協働を取捨選択しながら，探究活動を前向きに取り組むことが出来た。
・　複数で課題を解決するような学習を取り入れている教科科目が多い。
・　授業などでの発問を工夫し，身近なことに疑問を持たせることで，主体性を持てるようになってきている。
・　教科をキャリアと結び付けて指導することで，学ぶ意義を実感させることが出来た。
・　日々の授業で話し合ったり教え合う場面が見られるようになった。
・　実生活や身近な進路に即した指導が出来た。
・　現代社会の課題について自分事として考えようとする姿勢を持つようになった。
・　海外の生徒との交流があったのが良かった。

（課題）

・　教師からの解答だけを正解と考える傾向がある。
・　自らの力で切り拓こうとする主体性が育ちきっていない。
・　学習活動に関して，粘り強い態度はあまり見られない。
・　生徒に，取り組むための知識とその目的意識が不足している。
・　学びを振り返る授業活動の割合を増やすように授業を組み立てる。
・　より異なる考えや意見の違いを受け入れて，前向きに物事を進めていこうとする生徒が少ない。
・　上級生が下級生に対し，学習面や探究活動における初期のコーディネーター的な役割を担う機会等があれば，生徒自身による学びの調整力や探究力の向上，研究内容の継承が図られるのではないか。
・　社会に出て通用するような基本的な礼儀作法の指導を徹底する。
・　互いを良く知っているだけに，リーダーシップを発揮する生徒が固定化している。
・　理解力に差がある状況で，どう下位層に対応するべきか考える。

【何が身に付いたか（学習評価を通じた学習指導の改善）】

（成果）

・　単元シラバスに基づいた単元テストと評価を実施することが出来ている。
・　単元シラバスや学習評価によって，生徒が見通しを持って学習に取り組めるようになった。
・　単元シラバスや単元テストのシステムに教職員や生徒が慣れてきた。
・　シラバスで学習した内容を振り返ることの出来る単元テストを作成することが出来ている。
・　その日に学んだ内容をその授業のみの単体として捉えるのではなく，全体の学びの一部として捉えられるようになってきている。
・　生徒が自分のペースで学びに取り組みやすくなっている。
・　普段の授業から評価されるという意識は出来ている。
・　朝課外の廃止に伴い自分自身で何を学ぶべきか考える時間が設けられた。
・　自分を見つめ，調整しようとする力が少しずつ定着している。

（課題）

・　返却した評価を次時以降に活用している様子が見られない。
・　評価をフィードバックする機会の確保。
・　評価に対する生徒の理解と，本人がこだわりたい力の具体化と言語化。
・　単元テストが形骸化しないよう努めなければならない。
・　元々理解度の高い生徒だけではなく，全ての生徒が単元シラバスを読み解けるようなシラバスの工夫と改善を継続的に行う必要がある。
・　信頼性と妥当性のある評価規準を作成し，できる評価，続けられる評価を目指す。
・　苦手な分野を振り返る取組が不足している。学び直しをする姿が見られない。
・　授業の理解が深まり，更に各教科の「見方・考え方」によって学習への意欲を高めていけるような学習課題の構築。
・　保護者アンケートによると，校内順位が知らされないことで学習のモチベーショ

ンを失っている生徒がいるようだ。こちらの狙いを再度理解してもらう必要がある。

【生徒の発達をどのように支援するか(配慮を必要とする生徒への指導)】

(成果)

- いじめや不登校が少なく，生徒が安心して登校することが出来る環境になっている。
- 学年会や普段のコミュニケーションにおいて，生徒の細やかな情報は共有することが出来ている。
- 職員間による情報共有と連携に基づいた生徒への支援が出来ている。
- 学年会や学力検討会の実施。「学校たのしーと」等の活用と共有。
- 教育相談や面談を多く実施している。
- 別室登校や長期欠席者が出なかった。
- 生徒間の大きな人間関係のトラブルは(表面化し)なかった。
- 教室に居づらいと感じる生徒が少ない。

(課題)

- 配慮を必要とする生徒への支援について，保健室や教育相談の係と更に情報共有が必要。
- 個に応じた指導を推進し，チームとして対応することが出来るようにしていく。
- 相談しやすい環境作りの更なる促進。
- 教科指導において，限られた人数の中でどのように対応するか考える。
- 家庭の事情が複雑で，校外の様子の把握や指導が難しい。
- 問題を繰り返す生徒への対応。
- 集団の構成人員の変化が少ない地域特有の人間関係の再構築の難しさ。
- 学習以外の部活動や地域活動の支援と充実。
- スクールカウンセラーの活用法。

【目指す生徒の姿】

(成果)

- 総探の取組を通して，与論について理解を深められた。
- ゆんぬの活動を通して郷土を愛することが深くなっているように感じる。
- 特にゆんぬでは，自ら積極的に動き，主体的に物事を考えていた。
- 地域の課題について真剣に考えようとしている。
- 自ら考え行動することを必要とする学習活動の実践が出来ている。
- 意欲的に学習や学校行事に取り組む生徒が多々見られる。
- 島のしごとフェアを通して例年より情報が多く得られた。
- 様々な講演等の特別活動を通して，豊かな教養を身に付けている。
- 明るくて素直な生徒が多い。
- 社会に適応することが出来る逞しい生徒を育てられるようにしている。少しずつ対応することが出来るようになってきた。
- 体育祭等では，伝統を重んじ，全員で精一杯取り組もうとする姿が美しい。先輩が後輩を指導する文化もしっかりと受け継がれている。
- 生徒は夢や目標の実現に向けて努力している。

(課題)

- 教科学習などで学んだ内容を様々な場面で活用する機会を授業等で準備する必要がある。
- 地域に貢献したり，自己研鑽を積んだりしようという気持ちはあるものの，何から取り組んでいいかといった情報が不足している。
- 島外の情報や様子を伝えづらい。一般的な考え方や関わりに疎い。
- 世間の様子や動き，他校の同世代の感覚等を実際に感じる機会が少ないため，自身を客観的に評価しにくいのではないか。
- 興味関心があることと学習とのバランスが取れていない生徒が少なくない。
- 個人差があるので個に応じた指導，粘り強い指導が必要。
- 探究活動や発表等には積極的に取り組むが，日々の予習復習やペーパーテスト等への取組が甘い。

・　夢や希望を抱く一方で，具体的な取組が見えない生徒に対して，主体的に行動することが出来る力を育成すること。
・　学校生活の計画と自宅やプライベートの時間を管理することが出来るようになる。
・　防犯意識が低いと感じるため，島立ちの後の生活に向けての意識付け。

【何を学ぶか】

（成果）
・　科目，単元毎に育成する資質能力を細分化することで，見通しを持ちやすくなった。
・　学び合いなど言語活動を取り入れた授業の導入が科目を問わず出来ている。
・　シラバスを作成することにより，育成する資質・能力の明確化が図られている。
・　単元シラバスの利用による授業の流れの理解。
・　年間授業計画が作られている。
・　教員の負担増加などの難点はあるが，生徒の実態や受験科目に合わせた教育課程の変更が行われて良かった。
・　CAN-DOリストを活用し，学期毎の振り返りを行っている。
・　「総探」の体制は，学校外との連携を含めてかなり洗練されてきた。
・　各教科の「見方・考え方」を生かし，「総探」での活動を通して総合的に思考力・判断力・表現力を発揮している。
・　今年度から新課程が開始し(共通テスト３年目)，新学力観について理解が進みつつある。
・　新規事業への取組が多く良かった。

（課題）
・　生徒の実態と授業デザインがマッチングしているかの検証が不十分。
・　生徒自身が目標を設定し，取り組める授業作り。
・　生徒の実態を踏まえたCAN-DOリストの作成。
・　探究の意義や意欲，取組に対する個人差。
・　言語能力の育成。
・　何をどのレベルまで学び，身に付けるべきか客観的なアセスメントがまだされていない。
・　模擬試験で未履修科目の試験を受けなければならない生徒がいる。十分に検討を重ねた上で，現在の教育課程になっているので仕方がないのか。
・　新学習指導要領，新課程入試を考えた時の総授業単位数の検討は必要ではないか。
・　思考力・判断力・表現力には個人差が大きく，伸び悩む生徒への指導が難しい。
・　人数も限られる中で，下位層へどう対応するか。
・　新学力観について，教員の深い理解が必要である。

【どのように学ぶか(教育課程の実施)】

（成果）
・　年間授業計画や単元シラバスに沿って，適正に教育課程が実施されている。
・　単元シラバスに基づき，主体的な学びが出来るように授業を工夫してきた。
・　単元シラバスを通じて，単元に関連する様々な情報を提供することが出来ている。
・　シラバスや単元テストの計画を基に計画的に学習に向かうことが出来るようになってきている。
・　シラバスで生徒と単元内で学ぶ内容を共有することが出来ている。
・　目標とする資質能力から逆算した授業が出来た。
・　探究的な学びや協働的な学びはかなり行われている。
・　地域と連携して協働的な学びを得ることが出来た。
・　日頃の授業と地域のリソースが組み合わされている。
・　タブレットや大型モニターを使い，探究的な学びに繋がる授業が出来た。
・　スタディサプリ等を含め，各々の進路希望や科目の理解状況に応じた学習機会の確保が出来た。
・　新課程になって科目が変わり，より実践的な内容が学べるようになっている。

（課題）
・　シラバス作成時と実際に差が出来てしまい，計画通り進むことの方が少ない。

・　生徒がどのように単元シラバスを活用しているか，実態を把握する必要がある。
・　主体的な学びが出来る生徒とそうでない生徒の差が大きく，個に応じた指導が求められる。
・　振り返りなどの授業活動では，もっとICTを活用していかなければならない。
・　実技時間の確保，個別指導の時間確保。
・　教科における探究的な活動のための課題設定や形式的な評価の研究。
・　学習機会を準備することは出来たが，それぞれが適切に時期や量を選択する力は身に付いていない。
・　島外の生徒との交流を増やす。
・　地域人材を活用した学び。
・　コース選択前の一年生は特に，学力の差が大きい生徒を同じ評価規準で評価しなければならないため，規準の設定が難しい。
・　新しい科目が，どのような狙いの下で制定されたのか理解する必要がある。

【実施するために何が必要か(指導体制の充実，家庭・地域との連携・協働)】

(成果)

・　教職員同士による研修の機会など，お互いを高め合う機会が多く，生徒の指導や情報還元に役立っている。
・　学習者用端末の導入で，個別最適化された学習に取り組める環境が形成されつつある。
・　魅力的な講師の講演会で，生徒・地域・職員共に充実した内容になった。
・　ゆんぬや各種講演会を通して，地域の方々と連携・協働するための充実した体制が出来ている。
・　地域との連携や特色ある行事の実施によって，生徒のキャリア教育に広がりが生まれている。
・　職業講話は大変良かった。キャリア教育の充実が出来ている。
・　島のしごとフェアなど，地域の協力を含めた行事の実践，個に応じた指導の実践。
・　地域の人と活動することで与論の持つ良さを改めて実感することが出来る。
・　本年度，教科横断型授業研究員となり，ICT機器を使った実践研究を行い，授業改善が出来た。
・　ICTを導入した教材の開発。教育資源を活用し自己研鑽に励むことが出来た。
・　ICTの活用(資料の視聴やプレゼンテーション)を取り入れるようになった。

(課題)

・　授業改善について他の先生方と共有する時間的な余裕が無い。
・　学習者用端末購入など，ICT環境のより一層の整備と職員の研修。
・　生徒のICT基礎知識と生徒自身の目標設定と決断力・判断力。
・　各教室にプロジェクターが常設されればICTの活用が更に進むと思う。テレビ画面ではかなり大きなフォントでないと読みにくい。
・　地域を含め，様々な方が協力してくれているので，取り組んだことを外へ積極的に発信したり就職や進学等の実績を作るだけでなく，島に戻って頑張る若者や島外で頑張る若者のことを知る機会があれば更に良いと思う。
・　旅費の予算の範囲内で執行しなければならないため，たくさん呼ぶことが出来ない。
・　講演会や研修など，当初に入っていなかった行事等のために指導計画の修正が必要になることがある。
・　様々な行事を円滑に実施するために，目的や実施方法を職員で共有すること。

【安心・安全を守る】

(成果)

・　大きな事故，問題等もなく，安心・安全な学校生活が送れている。
・　意識して学校運営がなされている。
・　小規模校である強みを生かして，所属学年に関係なく全校生徒一人一人をチームで見守る体制が出来ている。
・　学年間の連携が取れている。
・　いじめが疑われる事案が発生していない。

・　人間関係でのトラブルがほぼ無かった。
・　問題の予防や課題解決に向けた取組が迅速に行われている。
・　アンケートを利用することで，いじめや生活習慣を考える機会が増加した。
・　教育相談や学年会の十分な実施。
・　下校指導や声掛けを行っている。
・　防災及び交通教育が充実している。
・　薬品管理に基づく防災体制について再度理解を深めた。

（課題）

・　不安定な生徒もいるので，心のケアと保護者との連携を密にしていく必要がある。
・　教育相談期間中の面談場所の確保。
・　情報モラルの涵養が必要。
・　性教育の充実。
・　登下校中の安全の意識付け。
・　避難訓練前に打合せの時間が欲しい。
・　生徒自身の危機管理意識。
・　SNSなど目が届きにくいものへの対応。

【開かれた学校づくり】

（成果）

・　ゆんぬ等を始め，地域と連携した教育活動に取り組むことが出来た。
・　広報係を中心とした行事等の広報。
・　広報活動や地域や外部と連携した取組を実施することで，認知度が上がっている。
・　HPの定期的な更新など，充実した広報活動が行われている。
・　HPのこまめな更新が行われ，校内の状況は校外に発信することが出来ている。
・　HPや広報誌，校長通信，新聞等を通して，学校の教育活動や成果をPRすることが出来た。
・　図書館開放は画期的な取組であると感じる。
・　アルバイト等で地域連携が広がった。

（課題）

・　学校から地域行事などに対する働きかけ。
・　学校が発信するとともに，地域の声ももっと拾っていかなければならない。
・　ボランティアや地域行事等への参加も積極的に行っていきたい。
・　PTAや地域と連携した行事の復活。
・　生徒会新聞等，生徒目線で学校をPRする取組が出来れば良いと思う。
・　HPにもっと見たいという情報があれば，見る機会が増えるのでは。
・　行事等への保護者や地域の方々の参加は多いが，授業公開期間の参観等が少ない。
・　講演会等での保護者の参加率向上。
・　県外への広報の更なる促進。
・　平日アルバイトの解禁により，より地域の人々との連携・協力が必要となってきている。